

< 館長報告 >

館長 土井 承夫 (どいよしお)

大輪のひまわりも首を垂れるほどの炎暑の日々ですが、皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

7月28日(日)に福庭公民館で開催された臨時総会で公民館新築に関する4つの議案は出席者全員の賛成を得て可決・承認されました。内容については臨時総会議案書を事前に回覧しておりその総会当日にも出席者全員に配布しておりますのでご覧下さい。また、その議案書の予備は多数公民館の床の間に置いてありますので必要な方はお持ち帰り下さい。

この結果、公民館新築計画は中断することなく予定通りのスケジュールで進めて参ります。すなわち、①2019年8月31日までに倉吉市役所に「コミュニティー助成事業補助金」と「自治公民館施設整備資金補助」の限度額合計1,590万円を支給頂くべく今まで蓄積したデータを盛り込んで万全の内容の申請書を提出します。⇒②2020年3月末までにこの助成金支給の裁定結果が通知されます。⇒③助成金支給が正式決定した後、4月上旬に地元業者を優先的に考えながらも指名競争入札を実施して解体業者と施工業者を選定する。そして直ちに新公民館建設着工及び旧公民館解体作業を開始する。⇒建設中の公民館代替施設は上井公民館さんや念法さん等にお願ひします(勿論、所定の使用料金をお支払いします)⇒④2020年12月31日までに新・福庭自治公民館が現在の場所に完成する。(補助金の完了報告及び不動産登記も行う)

< 福庭自治公民館新築特別寄附金(自主的な寄附)の集計状況 >

住民の皆様からの上記の自主的な寄附金の集計状況をこの後もこの館長報告でお伝えしていきます。ご寄附は新公民館が完成する来年2020年12月31日まで受け付けます。

受け付け窓口は館長の私、土井承夫です。(26-0770、携帯 080-4261-1979)
お電話を下されば、ご持参いただかなくとも私が戴きに参ります。

***令和 元年(2019年)7月31日(水)現在の集計結果(総計)は次の通りです。**

(1) 寄付頂いた世帯数： 130 世帯 (全体の約 47.6%)

(2) 寄附金の合計： 399 万円

(3) 個々の寄付金額の概要：最高額：30 万円 (1名)、
25 万円 (2名：1名は福庭、もう1名は福庭以外の方です) 10 万円 (12名)
5 万円 (10名)、3 万円 (16名)、2 万円 (12名)、1 万円 (77名) 他

(4) 今回は寄附を見送られた世帯数： 143 世帯

***目標は 1,000 万円です。皆様、更にご検討ください。**

<館長の行動日誌> (7月分)

7月5日(金) 福庭と福庭東の有志で構成するグラウンドゴルフの会に参加。G.G 発祥の地である湯梨浜町泊の「潮風の丘」でプレーする。ここは日本で一番風光明媚なコースで眼下に広がる日本海からの涼風に吹かれながらのプレーは価値ある 500 円と言ったところ。幹事は 17 班 (旧 26 班) の中山由美子さんをお願いしている。

午後は小鴨地区公民館で開催された鳥取「わらべ館」専属ソプラノ歌手の童謡コンサートを楽しむ。小鴨地区の皆さまのこういった企画立案にはいつも感心させられている。

7月6日(土) 三朝温泉街の「ブランナール」の山側に隣接する「三朝バイオリン美術館」で開催された弦展の演奏会でモーツアルトのクラリネットとビオラによる弦楽合奏を聴く。この三角部屋の教会風の会場に響き渡る若い演奏家の調べは三徳川の溪流の響きとハーモニーして心洗われる。

7月9日(火) 福庭老人会である福寿クラブの年一回のバス日帰り旅行に参加。現在の 52 名の会員の内の約半分が例年参加される。福寿クラブも女性会員が増加し現在男女半々の構成になっている。当日は倉吉市社会福祉協議会のバスをチャーターし、鳥取砂丘・砂の美術館～大江の郷～ちくわの里～イオン鳥取北店などを巡って楽しい一日を過ごした。

7月10日(水) かねてより希望していた倉吉市社会福祉協議会の坂本 操 会長と会長室で面談した。福庭自治公民館の現状と希望を説明し会長からも福祉協議会に関するお話を伺った。

午後は倉吉体育文化会館で鳥取県警察本部・倉吉警察署及び倉吉市

- 老人クラブ連合会主催の「高齢者の特殊詐欺被害防止研修会」に出席。
- 7月11日(木) 河北グラウンドゴルフ同好会による河北中央公園グラウンドの草取りに参加。この同好会は上井地区自治公民館の福庭、河北・海田東西・旭東旭西・柳町等の年配者で構成された同好会。現在の会長は福井吉宏氏(福庭・7班) 夜は混声合唱団「みお」の週一回の合唱練習に参加(住吉町・リフレプラザ)
- 7月12日(金) 「県民による第九」の前事務局長より事務引継ぎを受ける。夜7時から8時/28 臨時総会の資料作りのための「財務会議」に出席。(公民館4役)
- 7月13日(土) 臨時総会の委任状を400部作製した。
- 7月14日(日) 朝8時、「北田川の清掃(除草)」に参加。(産業土木部担当)
- 午後は高校同級生の主催するキューバの社交ダンス「サルサ」のダンス講習会に参加(リフレプラザ)、昔から土井承夫を殺すにはダンスをさせればよいと言われており改めて自分のダンスの才能ゼロの悲哀を味わった。とにかく足のステップに体各所の動きがバラバラでとても女性をリードできる状態にない。普通の女性なら間違いなく怒って帰ってしまう。「サルサ」は軽快なパーカッション主体のラテン系音楽に合わせて踊る陽気なダンスだが、リオのカーニバルで見ると日本人には少し恥ずかしい腰の動きが特徴。その同級生、三好昭生君の腰つきの何と魅惑的なことか・・・・この「サルサ」を踊る会は毎月一回日曜日の午後2時間練習しています。参加費は一人¥500/月です。希望される方は私に連絡下さい。どなたでも入会できます。ご夫婦やカップルでもどうぞ。
- 7月16日(火) 上井地区館長会に出席。座長は旭北公民館長の生田均 上井地区自治公民館協議会会長(兼同地区振興協議会会長) この館長会は上井地区17公民館長が月一回集まって諸案件を協議するもの。これに続き今年の「あげい祭り」実行委員会が開催された。私は交通安全部副部長としてその運営の一端を担う。

夜7時からリフレプラザで「県民による第九」2020年倉吉公演の第一回実行委員会に新事務局長として出席した。

「県民による第九」は公益財団法人鳥取県文化振興財団の特別共済事業として毎年、鳥取～倉吉～米子の3都市持ち回りで開催している。従って3年に1度は必ず倉吉の番となり来年2020年の東京オリンピックイヤーがちょう第9回目の倉吉公演となる。その事務局長を拝命し気持ちを新たにしている。この「県民による第九」は昭和57年(1982年)に「わかとり国体合唱隊(750名)」の育成について議論となり、同合唱隊

によりベートーベンの「第九」を練習して昭和 60 年（1985 年）10 月 20 日の「わかとり国体」開会式においてこれを披露した事が発端となっている。従って来年で 30 年に喃々（なんなん）とする長い歴史を持つこのクラシック音楽の事業は鳥取県の文化事業のなかでも確固たる存在感を持つ。そして来年の倉吉公演はベートーベン生誕 250 年そして奇しくも「第 9」回目の倉吉公演、更には指揮者、山田衛生先生の傘寿（80 歳）記念、ついでに福庭自治公民館新築竣工とサブタイトルに思案する程の特別な年である。今まで空席が目立っていた倉吉未来中心全 1500 席を満席にする事を目標にたてそのためには何をするのか、過去の慣習や慣例に一切とらわれず今までで最高の演奏会になる事を目指してこの事務局長の任を全うしたい。

- 7 月 18 日（木）朝 7 時 30 分に福庭町・河北町交差点に立って交通指導員の方々と河北小学校の小学生通学の安全誘導を行った。これは交通安全週間の期間に各公民館に割り当てられた役割分担に基づくもの。昔と違って登校する小学生のほとんどが挨拶を返さないというのは少しショックだが、世の中の価値観や生活スタイルが多様化しているので一概に「今の子供は・・・」と声を荒げるのもどうかとも思う。
- 7 月 23 日（火）午前中、先月もお話した月一回の「ウィーンの森の音読会」に参加。夜は鳥取市で開催された NHK 交響楽団鳥取公演を鑑賞する為、とりぎん文化会館梨花ホールに行く。浅田真央さんのソチ五輪フィギアスケートで有名になったラフマニノフのピアノ協奏曲をピアニスト、指揮共に 40 歳代の若いロシア・東欧出身の演奏家で聴いた。「若いって、いいね!」と感じた。
- 7 月 24 日（水）当月 29 日に予定している上井地区老人クラブ協議会主催の「高齢者健康管理講習会」の責任者（同クラブ研修委員）を拝命しているので事前に講師側と挨拶を兼ねて打ち合わせを持った。市の保健センターは「しあわせの郷」内にあります。その所長である谷本真一さん（福庭 11 班）と講師の女性保健師、田中 圭さん（採用 1 年生だが講演当日は素晴らしい内容の講演や体操指導を行い聴講した老人会メンバーから好評を博した。）と事前に準備等について打ち合わせた。
- 7 月 28 日（日）福庭公民館で公民館新築計画に関する主に財務面を審議する臨時総会を挙行了。その内容については冒頭に詳細に説明しております。
- 7 月 29 日（月）前述した上井老協主催の「高齢者健康管理講習会」を上井公民館で開催した。50 名を超える聴講者が参加し盛況の内に閉会した。

～ 館長のちょっと一服コーナー ～

<女子バレーボール日本代表監督 中田 久美さんのお話です>

～ 心は、折れてなんぼ ～

女子バレー全日本監督の中田久美さんは昭和40年生まれの現在53歳。14歳であの山田重雄 監督の英才バレーボールチームに入り翌年史上最年少の15歳で全日本代表に選ばれた。そして中田はそのまた翌年の昭和56年に日立に入社し名セッターとして名を馳せた。私は昭和54年に会社（日立金属）に入社したので中田だけでなく大林や吉原、多治見の名前を聴くと懐かしい。まさに当時は日立バレー全盛の時代だった。鳥取県の中学校間で日立金属杯の大会があったり、お隣の島根県安来市にある安来工場の女子バレー部が強いのもそういった流れから来るのだろう。

然し90年代に入って国際的な価格競争が激しくなると一企業がバレー部をまる抱えする事の負担が増大しやがて部解散に追い込まれる。中田もその時期に退社した。その前後に右膝じん帯断裂の大けがをし再起不能とまで言われたり私生活でもセミヌード写真集が話題を集めたり夫婦間のすれ違いから離婚も経験した。現在は独身である。また、テレビのニュース番組でコメンテーターもやったがある時「すぼると」の番組中、女子選手たちに「てめえら、この野郎！！」と大声で怒鳴り散らして顰蹙（ひんしゆく）を買ったが結果的にそれが女子選手たちの気を引き締めて良い結果に繋がり後日、日本バレーボール協会から感謝の言葉を貰う事になる。そして41歳の時、父が癌を宣告されて死の淵にあった時、その父の「俺の人生に悔いはない」と言ったその言葉が胸に突き刺さり自分も最後は「悔いはない」と言えるように頑張りたいと決意した。こういう沢山のプラスマイナスの経験が今の彼女の前向きな生き方の裏付けになっている。そして、こうも語る「心は、折れてなんぼ」その折れる心をどう取り戻すかを考えるのが大切。折れたままの現状に満足してはいけない。そこからどうやって戻すか、それを他人の優しい言葉や慰めに頼ってはいけない。最後は自分で考え自分で決めるのだと・・・

・ ・ 来年の東京オリンピックでの中田ジャパンの金メダルを期待したい。以上

<余談>～館長のひとり言～この数日、何人かの住民の方から「館長さん、今年の夏祭り（8/10<土>）は、ピアノ弾き語りライブはしならんか？」と・・・では実行委員会から正式要請されたので予告しちやいます。時間は18:35～18:40の5分間（バンド「璃絃」殿の持ち時間の最初の5分間です）曲目は レット イットビー（ビートルズ） と 海その愛（加山雄三） の2曲です。次葉に夏祭りのチラシを添付します。